

『病理組織検査・細胞診検査』 所要日数変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、病理組織検査・細胞診検査におきまして、依頼数の急増、および複雑な症例や特殊染色・免疫染色といった追加検査が必要となるケースが増えてきており、検査精度の維持と迅速な結果報告の両立が困難な状況となっております。

弊社といたしましては、検査精度の維持を最優先と判断し、やむを得ず、標記検査の所要日数の見直しをさせていただくことになりましたので、取り急ぎご案内申し上げます。

先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

敬 白

2025 年 6 月

【記】

検査項目名	変更内容	新	従来
病理組織検査	所要日数	6～10日	4～7日
細胞診検査		5～6日	3～5日

※ 検体の状態や検査の種類等に応じて、所要日数が変動いたします。

変更期日：本案内通知より所要日数を変更

※ 所要日数に関する詳細は裏面をご参照ください。

【補足事項】

■ 病理組織検査

検査にかかる所要日数は、**検体の状態や検査の種類等**によって変わります。

詳細な所要日数は以下をご確認ください。なお、この所要日数は、**病理組織検査**にかかる**通常日数(6～10 日)**も含まれています。

※ 尚、記載されている所要日数は目安です。

検査の状況によって、日数がさらに長くなる場合がございますのであらかじめご了承ください。

検体の状態・検査の種類・他		所要日数	備考
検体の状態	脂肪を多く含む組織	約2週間	特殊な包埋・薄切・染色方法選択等の必要があるため
	骨や石灰化を伴う組織	約2週間	組織から、ミネラル成分を取り除く処理(脱灰)の必要があるため
	手術材料 (脂肪除去と再度の固定処理が必要な場合)	約2～3週間	手術材料で脂肪除去や、それにとまう再固定処理が生じるため
	乳腺組織	7～10日	脂肪が多く構造が複雑なため、固定と適切な観察・切り出しが必要なため
	骨髄穿刺	2～3週間	特殊な処理と多角的な評価、または必要に応じて追加検査が必要なため。
検査の種類	組織判定に免疫染色が必要な場合	約3週間	免疫染色の実施のため
	乳腺組織でER、PgR、HER2の検査が必要な場合	17～24日	特殊な検査の実施のため
その他	専門医による詳細な判定を必要とする組織 (皮膚、口腔領域、前立腺など)	約2週間	より詳細な観察と多角的な評価、追加検査や複数医師による検討が必要なため
	複数の顧問病理医による判定を実施する場合 (難解な症例など)	10～14日	複数の専門家による慎重な検討を行うため
	顧問病理医による再検、コンサルテーション (追加で再検をご依頼いただいた場合)	約2週間	再度、顧問病理医による確認を行うため

■ 細胞診検査

細胞診専門医による判定が必要となる場合は、通常日数(5～6 日)よりも若干の所要日数をいただくことになりますので、あらかじめご了承ください。